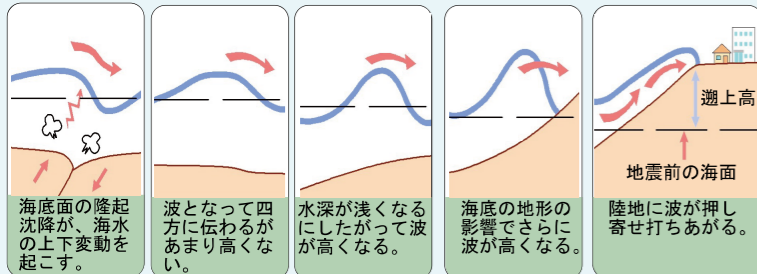


## ◆津波発生仕組み



- 気象庁が発表する「津波の高さ」とは、海岸付近の海面がどのくらい高くなるのかをいいます。
- 津波の高さは、海岸や湾の地形によって予想された数倍に達することがあります。
- 津波が、陸地や河川を駆け上ることを遡上といい、ときには津波の高さの数倍、数十倍に及ぶことがあります。この高さを遡上高といいます。

## ◆津波の特徴

**引き潮が無くても来る**

地震の起こり方や、震源付近の地形によっては引き潮が起こらないこともあります。

**2波、3波と繰り返す**

津波は繰り返しおそってきます。第2波、第3波の方が大きくなる可能性もあります。

**津波の高さは想像以上**

津波の高さは、海岸の地形によって大きく左右されます。

## ◆避難場所・海拔表示看板

**避難場所看板**

災害種別に応じた避難場所や避難所を掲示している。

この地盤は

**海拔 5.3 m**

設置地点の海拔を掲示している。

## ◆地震・津波時の心得

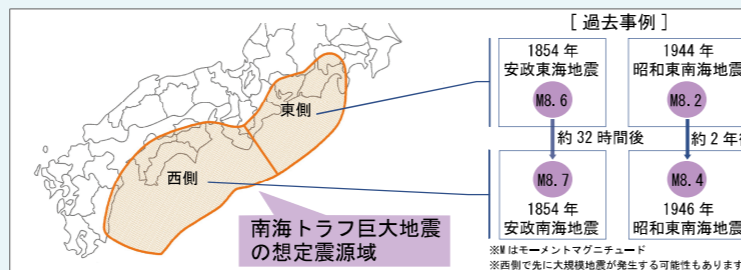
- **海岸で強い揺れを感じたら避難**
  - 海岸で強い揺れを感じたら、ただちに海岸から離れ、高台などの安全な場所に避難します。決して海岸に近づかないように。
- **火の元の確認**
  - 避難する前に火の元を確認しましょう。ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーも切るのを忘れずに。
- **お年寄りや子供を守ろう**
  - お年寄りや子供は、しっかり手を握って避難しましょう。ご近所同士で声を掛け合い助け合いましょう。
- **遠くよりも高くへ避難**
  - まず高台へ避難しましょう。時間に余裕があるときはさらに高い所へ避難を。
- **徒歩で避難**
  - 原則徒歩で避難しましょう。自動車での移動はちょっとした原因で渋滞し津波に巻き込まれる可能性があります。
- **自宅へ戻るのは津波警報解除後**
  - 自宅へ戻るのは、必ず津波警報が解除され安全が確認できた後にします。ラジオなどで情報を入手しましょう。
- **感染症の予防**
  - マスクの着用、アルコール消毒、ソーシャルディスタンスの確保に心がけましょう。

## ◆南海トラフ地震臨時情報

### ■時間差で発生する巨大地震に備えましょう

- 南海トラフ地震の発生可能性が通常と比べて相対的に高まったと評価された場合に気象庁から「南海トラフ地震臨時情報」が発表されます。
- 政府や地方公共団体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとりましょう。

### ■地震は一度では終わらないかも



## ◆災害用伝言サービス

**災害用伝言ダイヤル 171**

◇電話を用いて安否情報（伝言）の録音・再生を行えます。

171 録音 1 をダイヤル → 被災地の方も被災地外の方も → 伝言を入れる  
 をダイヤル 再生 2 をダイヤル → 電話番号を市街局番からダイヤル → 伝言を聞く

**災害用伝言板 (Web171)** URL: <https://www.web171.jp/>

◇スマートフォン・携帯電話・PC から災害伝言 (Web171) にアクセスすることでテキストによる安否確認（伝言）の登録・確認を行えます。

※携帯各社から「災害伝言サービス」が提供されます。利用方法については事前にHPにて確認しておきましょう。

## ◆非常時持ち出し品

- 非常持ち出し品は、夜間時の避難を前提に足下を照らす懐中電灯を始めとして、替えの下着等も必要になります。
  - ※リストはほんの一部です。各家庭で話し合いをし持ち出し品を決めておくことが重要です。
- 飲料水
  - 非常食
  - 貴重品（現金・通帳・印鑑・保険証等）
  - 常備薬 □ お薬手帳
  - 衣類（下着を含む）
  - 懐中電灯
  - 携帯ラジオ
  - 携帯電話（充電器含む）
  - マスク
  - 救急セット
  - 紙オムツ
  - 生理用品
  - タオル
  - 除菌アルコール
  - 歯ブラシ等の口腔ケア用品
  - 乳幼児に必要な物
  - その他生活に欠かせない物

## ◆防災メモ

- **避難する場所**
  - 避難場所 □ 親戚・知人宅 □ その他

実際に避難する場所： \_\_\_\_\_
- **避難のとき支援する人**

名前： \_\_\_\_\_

電話番号： \_\_\_\_\_
- **避難のとき支援してくれる人**

名前： \_\_\_\_\_

電話番号： \_\_\_\_\_

# 小豆島町

# 津波ハザードマップ



## ◆津波ハザードマップとは

津波ハザードマップは、南海トラフを震源とする巨大地震により発生する最大クラスの津波から身を守るための情報が記載されています。このマップを活用し、地震や津波に対する具体的なイメージをもって、その特性を理解し家族間で危険な場所、避難ルートを知っておくことが重要です。

家族の話し合いなどの機会に「津波から身を守るためのツール...」として活用してください。

## ◆ハザードマップの使い方

- ①自宅の位置を確認する**  
自宅の位置に印をつけましょう。
- ②津波浸水域を把握し危険な場所を確認する**  
地図上にて津波浸水域に色分けして表示しています。自宅周辺の危険な場所を確認しましょう。
- ③避難する場所を確認する**  
自宅から最も近い指定避難場所の「位置」と「名前」を2カ所以上確認しておきましょう。
- ④安全な避難経路を考える**  
自宅から最も近い避難場所（③で決めた場所）までの避難経路を考えて書き込んでおきましょう。また避難が困難な場合は近くの高台への避難も視野にいれて、避難経路を考えてください。
- ⑤自分たちの目で避難経路を確認する**  
設定した避難経路を実際に歩いてみて、安全性や注意点など確認しておきましょう。
- ⑥非常時の持ち出し品を準備しておく**  
非常時の持ち出し品チェックリストを参考に、避難する時に必要な物を予め準備しておきましょう。

## ◆津波から命を守るために

**大地震発生！**

立ちいられない揺れの発生

◎まず身の安全を確保しましょう！

まず低く DROP! 頭を守り COVER! 動かない HOLD ON!

● 倒れてくる家具や落下物に注意する。

● ドアや窓を開けて逃げ道を確保する。

◇車にいた場合

- 車は左脇に寄せ、鍵はつけたまま避難する。

◇船にいた場合

- 船は港に戻らず沖合いへ避難する。

**地震発生からおよそ1-4分**

強い揺れがおさまったら...

◎落ち着いて状況を把握しましょう！

- 1分以上の揺れがおさまったら警報等の発表を待たずにすぐ避難する。
- 火の元の確認をする。
- ガラス片やかかわらなどの落下物に注意し避難する。
- 海や河川の様子を見に行ってもいけません。

**地震発生からおよそ5-30分**

※沿岸部に津波の影響がでるまでの時間です。地震発生から30分までに避難しましょう。

住まい、職場、学校などに津波の危険がある場合「すぐに逃げましょう」

◎揺れを感じなくても、津波警報が発表されたり町からの避難指示が発令されたらすぐに避難！

- 小さな揺れでも要注意。まずは避難が最優先。
- より早く、高い所へ避難。
- 河川や海岸から遠ざかるように避難。
- 車で避難しない！！渋滞を引き起こし危険。
- 持ち出し品は取り出しやすい場所に保管。

住まい、職場、学校などに津波の危険がない場合

- 家族や近隣住民の安否確認を行う。
- 周囲と協力して救出/消火活動を行う。
- 災害時要配慮者の避難等に協力する。
- 間違った情報やデマに惑わされないように注意する。

**地震発生からおよそ6時間-24時間**

町が指定した避難場所に避難

◎津波警報が解除されるまでは戻らないようにしましょう。

津波避難場所 避難施設

- 近くに高台がない場合高い丈夫な建物など可能な限り高い場所へ避難する。
- 避難所では担当職員の指示に従い行動する。

**気象庁より津波警報発表**

地震発生から2~3分後に津波情報が発表されます。津波警報が出たら、冷静な行動を心がけ避難してください。

津波の危険がなくなったら・・・（津波警報の解除）

- 家に被害が無い場合
- 家に被害がある場合

地震発生から数日

- 自宅にもどる
- 避難施設での避難生活

令和3年3月改訂  
発行：小豆島町 総務課危機管理室